

第1回名古屋市次期総合シンポジウム 少子化への対応・子育て支援を中心に

日時：令和5年9月1日 午後6時から午後8時30分頃

会場：名古屋市立大学桜山キャンパス さくら講堂

司会

皆さん、こんにちは。本日は、名古屋市次期総合計画シンポジウムにご参加いただきまして、誠にありがとうございます。

私は、本日司会を務めさせていただきます黒田ひとみと申します。よろしくお願いいたします。

始めに、本日のプログラムをご案内申し上げます。

まず、名古屋市総合計画中間案の紹介動画をご覧ください。続いて、中京大学松田教授より基調講演をいただきます。そのあと、休憩の時間を設けたいと思います。休憩後は、名古屋市立大学上田教授のファシリテーションのもと、松田教授、お笑い芸人のキンタロー。様、BOYS AND MENの辻本様によるトークセッションを行います。最後に、次期総合計画中間案に対する皆さまからのご意見を伺う時間を設けたいと思います。

終了時刻は20時15分ごろを予定しておりますが、途中退席や再入場も可能です。また、本日会場にお越しの皆様にお配りした封筒の中には、アンケートと名古屋市次期総合計画中間案に対する意見用紙が入っております。

本日のシンポジウムはオンラインでもご覧いただいておりますが、配信中の動画の概要欄には、アンケート回答フォームと中間案へのご意見募集フォームへのリンクをご用意しております。

本日の公演内容や次期総合計画についての皆様のご意見をぜひお聞かせください。なお、ご意見募集フォームからいただいたご意見は、中間案に対するご意見をうかがう時間に会場でご紹介する場合がございます。

それでは、開会に先立ちまして、名古屋市長河村たかしよりご挨拶申し上げます。

(0:02:18)

名古屋市長 河村たかし

それでは、おいでいただきましてサンキューベリーマッチということでございます。今日は子どもについてということでございましてね。私もまあ若作りし

ておりますけど、もうすぐ75で、ようやく大体ちょっとわかってきたかなと。

これ教育だけじゃなく、その前の学校行く前のことも入っておりますけど、子どもさんにはやっぱり好きなことやってもらわないかな。アメリカのスクールカウンセラー10年やった人が言っとったけど、向こうは受験がないというのが実は1番大きくて、高校入試なんてありません。どういう風だって聞いたら、特に子どもさんには、学校入ってから話ですけど、とにかくあなたの好きなことはなんだと、それで聞いてみやあと。その好きなことを発見できるように応援してあげて、それなりに好きなことができたなら、その好きなことを今度は実現するように大人がみんな応援するんだと。なるほどねと。

日本は大体受験勉強ですからね、これ。ロサンゼルスで子どもに順位をつけるのかって一月ぐらい前に聞いたんです。例えば、美術が好きだ、美術が得意だ、エクセレントかニュートラルかスローか。そういうのはあるけど、そんな、学年でみんな成績を寄せて、1番から1番最後まで順位をつける、そんなものないって言ってました。なんでそんなことやるんですかということでございます。

まあそこへ行く前に、子どもさんを、産むところというか、生命の生まれいずる、女性の努力、これを応援する。そういうことでは相当やっとなんじゃないですか。誰も褒めてくれんですけど。減税しとって税収を増やしてますのでね。

まあそういう面では、まず、生まれいずるところを応援しなきゃってことはやらせていただくわけですけど、まあ繰り返しになりますが、名古屋においてはほんとに受験廃止ですわ。もう高校入試やめよまいって言っとるんですよ。こんな可哀想な、本当に子どもさんにということを考えて言っとるんですけど、なかなか疲れますわ。

ということでございまして、色んなご意見ぜひ出していただいて、ほんとにわしが始めから終わりまでちゃんとおらなあかんですわ、これ市長やっとなで。皆さんのご意見たまわらないかんけど。

そんなことで、是非いろんなご意見を出していただければと思います。サンキューベリーマッチ。ありがとうございます。

司会

河村市長、ありがとうございました。河村市長はここで退席いたします。

次に、7月31日に公表されました名古屋市次期総合計画の中間案を紹介する動画をご覧いただきたいと思います。

この動画は、一見難しそうな次期総合計画中間案について、BOYS AND

MEN の本田剛文さんと OS☆U の夏川愛実さんと一緒に勉強していく内容となっております。それではご覧ください。

(0:06:12)

名古屋市次期総合計画中間案紹介映像上映

司会

いかがでしたでしょうか。次期総合計画中間案の概要について、ご理解いただけたのではないかと思います。

続きまして、本日のシンポジウムのテーマ「少子化への対応・子育て支援を中心に」に基づき、「少子化を克服するには ～幅広い若者、子育て家庭が支えられる社会に～」と題しまして、中京大学 現代社会学部 教授 松田 茂樹様にご講演いただきます。松田様は、家族社会学、少子化研究がご専門で、子ども家庭庁こども家庭審議会委員などとしても幅広くご活躍されています。

また、名古屋市次期総合計画有識者懇談会委員として、次期総合計画にも携わっていらっしゃいます。

それでは、松田様、よろしくお願いいたします。

(0:27:19)

中京大学 現代社会学部 教授 松田 茂樹氏（以下、松田氏）

ただいまご紹介に預かりました中京大の松田です。よろしくお願いいたします。

私の方から、短い時間になりますけれども、少子化及びこの少子化対策の話をしたいと思います。

まず私自身ですけれども、社会学の立場から、少子化及び少子化対策を研究している者です。

全国のデータの分析をすることが多いですので、名古屋市様にフォーカスした、皆様がこれが欲しいという話をできないかもしれません。ですが、私の特徴として、できるだけ大きな俯瞰的な視点で、日本のこの少子化の問題を捉えて見せる。これについては、今日新しい視野を皆様に届けることができれば幸いです。

それでは、「少子化を克服するためには」というタイトルで、お話をさせていただきます。

(0:28:00)

今日の話は、拙著の『[続] 少子化論』というものからになります。少子化というものは、ある一部の現象だけ捉えるとなかなか全体像が見えないところが

あります。

そこで、全体を捉えると、何が問題かということで、何をしなければいけないかが、もう少し見えてくるのではないかという話です。私は大学の教員ですので、面白い話は、すみません、できません。

ですが、あの大学の講義のような形を、できるだけわかりやすく、皆様に今日、お話しできればと思います。

今日、話の中には、皆様がおそらくニュースや新聞では見たことがない、聞いたことがない話を新しく伝えることもいくつかできるかと思います。

それではですね、いくつかブロックに切っていきたいと思いますけども、最初に、日本の出生率、この推移の話、それをどう読み解いていくかというところからいきたいと思います。あの、すごい基本的なところになりますけれども。

(0:30:05)

まず、この図は、おそらくご覧になった方ばかりだと思います。

ニュースや新聞で、毎年必ず出てきますね、日本の出生率と出生数の推移です。

戦後すぐからですね、現在までということです。細かな説明は省略させていただきますが、この棒グラフのところが、その年に生まれた子ども数ですね、出生数で、赤いところが、これもニュースでよく言われる出生率、正確には合計特殊出生率というものになります。

我が国、戦後すぐですね、子どもがたくさん生まれた頃があります。団塊の世代ですね。今日、その世代の方もいらっしゃるかと思いますけども、今の水準に比べるともう数倍、1年間に子どもが生まれていたということです。

その後ですね、ものすごい急速に子ども数減ります。生まれる子ども数ですね、失礼しました。で、出生率も下がっていくと。

そして、もう1回上がるのが、これが団塊ジュニアですよ。私の弟がこの世代なんですけども。その後、ずっと下がって行って、今にも至るということです。先ほど、名古屋市様の総合計画の中で、少子化と、人口減少という話が出てきました。

この少子化というのがここですよ。では、違った説明を少ししたいと思います。

少子化はどれでしょうかということです。どこでしょうか。で、これ、ここもたくさん子ども数減っていますよね。

出生率。これ、あの1人の女性が産む子どもの数です。これも急速に減っています。ですが、結論先に言うと、これは少子化ではないです。

で、少子化は何かというと、これは人口学の方から言われていること、認識と

してはここからです。ここに線を引かせていただきました。
おそらく色々なところで配布されている資料には横の線はないです。ちょっと青だったので、ごめんなさい、見にくいかもしれません。
これが2.07のところに引いています、私。人口置き換え水準というところです。つまり、この2.07を上回る出生率であれば、その国の人口は長期的に減らないんです。で、これで見ると、ここから減っていますよね。2を割っているの、ここですよね。1970年代半ばに割るんです。そして、そこからずっと下がってる。これが少子化なんです。というと、ちょっと言われてることと違うかもしれません。言われてるといって変ですね。世の中で認識されてることです。少子化というのは比較的新しい現象じゃないかと思われるかもしれませんが、実は70年代の後半からもう徐々に徐々に進んできていたということなんです。
ちなみに、ここに、ぽこっと、出生数が少ない年がありますね。これが丙午です。

(0:33:39)

これなのですけれども、このまま行くと、これ、2020年時点の人口ピラミッドです。

少子化が進む社会というものは、当然、生まれる子どもの数が減ってくる。それに対して、年長の人の数は多い。こういう社会になります。今まさに、この瞬間、そうですけど、これが0歳、そして、1番上が100歳超まで取られてる図ですね。こちら、男性で、女性になってますが、1年、今行きますと、これ団塊の世代がちょうどいた頃がここですね。非常に人口が多いです。そして、これが団塊ジュニアです。これに対しまして、それよりも若い世代の方というのは非常に少なくなっているということです。世代間の助け合いということ考えた時に、なかなかこう、若い方でシニア世代を支えてく、だんだん難しくなってくる構造になってきます。

ではですね、今日は、先ほどの絵と今の絵をリンクさせたいと思います。実は、同じ絵だとわかりますかね。これですね。1個前のこれですね。出生率の図というのは、こういうのは乗るんですけれども、実は人口のピラミッドそのものなんですよ。

どうするかというと、これ90度右に回転させましょうか。ちょっとゆっくり回転させる技術がないので、私は。ごめんなさい、一気に変わっちゃうんですけれども、こうなります。人口ピラミッドです。同じです。つまり、何かというと、今、毎年生まれる子どもの数が減ってきてますよね。それというものは、死亡率が一定だと、年齢別に一定だと仮定した場合には人口ピラミッドと

同じ図になるんです。これ、たまたまこう、あれですね、こう、男女合計でこれ出してますから、こうなってますけども、これを男性側と女性側で分ければ当然こうなるわけです。ということは、出生率の図、これを見るだけで、どんどんと日本の人口、若い世代が少なくなり、そして年長世代は比較的多い。この構造がより強化されていくというんですかね、それが、人口の図からも出ているということです。

(0:36:32)

これなのですけれども、では、少子化は問題なのかという話です。

これについては、今日延々と、ごめんなさい議論する時間がここはないので、結論から言います。大問題です。

議論する時間がないと言ったのはなぜかという、少子化は問題ではないという意見も世の中にはあるからです。今だんだん減ってきましたけども、少なくとも私が少子化を研究し始めた頃はかなり強い声としてもありました。

実際、少子化が我が国にもたらす影響ですね、負の影響、マイナスの影響、いくつか挙げると、主なものを3つぐらいありますね。

1つ目は社会保障。これは脆弱化していくだろうということです。具体的には、年金制度、これは医療のこの保険もそうです。また他にも介護もあります。何かと言いますと、いずれの仕組みも、若い世代が多く拠出する、あるいは若い世代が拠出してシニア世代を支える構造になっているんですよ。

そのために、少子化が進んでいくとちょっと難しくなってくる。維持がですね。これはよく言われることです。

2つ目は、経済力や、豊かさや国力の低下ですね。

少子化が進んでいく社会というのは、明らかに経済力が弱くなっていく社会です。これは先ほどのビデオにも出てきましたが、若い世代、特に若い働き手が少なくなっていけば、それだけ企業活動に影響しますよね。

または、若い人の方が消費をされるとも言われています。そうすると、少子化が進み人口減少する社会は、経済力、ひいては、国力が、弱くなると言われています。

最後、3つ目は、社会関係資本。ちょっとカッコいい言葉を使ってしまいましたが、社会学の言葉です。

ソーシャルキャピタルという、アメリカの方でも言われているものです。人と人の助け合いです。

普段、我々が生活している中でも、隣近所や、町内会、あるいは、それ以外の友人、知人によって、かなり助けられている部分があると言われています。少子化が進む社会、人口減少が進む社会では、なかなかその維持が難しくなると

ということですね。この3つ問題として挙げた時に、じゃあ、どうしたらいいかということ。1つ1つ解決するのも大事なのですけれども、大事な話は、ここに書きましたけども、少子化を止めるしかないんだと私は思います。一気に止まりません。長い時間かけて出生率を回復させていく。そして、世代間の助け合いを持続させていく。この方向であると思います。

(0:39:47)

ではですね、その方向はどちらでしょうか。これは松田のオリジナルの議論からです。

今ですね、横軸に結婚する人の割合を取ります。

100パーセント結婚する、あるいは半分だったら50パーセントということですね。で、ここが0パーセントになっています。縦軸に結婚したご夫婦、結婚したカップルがもうける子どもの数を取りましょう。すごく簡便に、ここが1人で、ここが2人にしました。

これ、授業で私が見せる、分かりやすく学生に伝えるために使う図ですね。拙著にも載っています。これでいきますと、出生率を、先ほど人口置換水準2つて言いましたよね。正確には2.07。どうなったら2.07になりますかね。これは簡単な算数です。

横が結婚する人の割合であれば、これ100だと100パーセントですよ。

100パーセントって、1です。縦軸です。

夫婦の子ども数です。全ての夫婦が2人もうけましょう、子どもを。

子どもをもうけない人とか1人とか、もうそれはとりあえず家庭としてなしにします。全部の夫婦が2人もうけたと。そうすると2です。

全員が結婚すると1で、全部のご夫婦が2人必ず子どもをもうけると2ですね。1掛ける2は2ですよ。

そう、出生率2.0というのは、そこの面積なんです。我が国が少子化を止めるためにはその面積が必要なのです、出生率。ただ、これは絶対この方向は無理ですよ。あの、結婚したくない方はたくさんいます。

たくさんというのはちょっと言い過ぎですけどね。その方を無理にご結婚させるというのは、ちょっとなかなか難しいだろう。また、結婚したご夫婦が必ず2人をもうけなさいというのも、これも酷な話ですよ。そうすると、出生率回復というのは、こっちの図ではないんだと思います。こっちです。こちらは何かと言いますと、横軸と縦軸は同じです。結婚しない方はいます。主体的に子どもをもうけない方も、カップルもいるでしょう。その方はいいんです。その分、こちらが少なくなりますよね。その代わり、ここで減った分の面積2.0を維持するにはどうしたらいいかというと、ここに書いた形の面積、青

い色の部分の面積が必要なんです。ちょっとハードルが高いようです。なぜなら、ある程度、多子世帯と我々呼びますけれども、政府資料でも呼ばれます、子どもが3人以上いる世帯がないとこれが持たないからなんです、しかし、このようにして出生率を回復させていくというところが大きな方向としては大事ではないかと思います。

理由は何かという、その社会は、結婚したい人はするけれども、したくない人はしない、子どもをもうけたくない人はもうけない。しかし、子どもをもうけたいという人がもうけることによって、子どもを持てるということができるようになって、そして全体として出生率が維持できるということなんです。

(0:43:34)

それを少子化対策に落とすと3つの要素が必要になります。1つ目です。横軸です。

希望する方が1人でも多く結婚できるようにしましょうということです。

色々な制度などを整えて、これ、異論はあまりないかと思います。縦軸です。全ての結婚したご夫婦、カップルが希望するだけの数の子どもを持てるようにしましょう。

ここまでは異論はないと思います。で、私はプラスアルファです。

それは、就業形態にかかわらず、希望する方を子どもの数を持てるように支えることが大事ではないでしょうか。

具体的には、共働き世帯もあれば片働きの世帯もある、あるいは他の世帯もあるかもしれません。これが2つ目です。

で、3つ目です。これは今日の話にはないんですけども、省略しますが、3つ目は、結婚主体的にしない方や、主体的に子どもをも持たない方、この方々は尊重されるべきです。

しかしながら、その方々は、できれば子どもを産み育てる方を支える側に回ってあげてほしいんです。これがないと、なかなかこう、子どもを育ててる家庭は大変ですよ、ということです。さあ、では、日本の出生率を低迷させている要因は何でしょうか。ということです。

今日は、具体的な細かな数値のデータは持ってきていません。

(0:45:17)

いくつか主な意見として、あるいは、主なデータで言われてることを○で挙げてくと、こんな感じですね。色々ありますってことです。

例えば、出会いがない。右の上にありますね、若い世代でなかなか結婚が難しくなってるというデータは出てます。色々な調査が浮かび上がらせることは、

適当な相手に巡り合わないということですね。どう出会いを支えるのか。これは、1つの問題として言われてます。

左の上の方ですと、例えば、子育てにお金がかかりすぎる。これ、先ほどのビデオでもお話がありましたよね、

子どもを1人育てると、かなりお金がかかります。私も、3人子どもがいるのですけど、稼いだお金が、どんどんと、子どもに使うんですけどね、これは本当に実感しております。

そのために、共働きをするのですけれども、なかなか、仕事と生活の両立というのが難しい。

これは、労働時間の話であったり、などなどあります。その他、これは全国的な問題としては、よく出ますね。名古屋市に関しては、問題としては低いと思います。例えば、待機児童の話です。名古屋市さんですと、4月1日時点の待機児童、ゼロですよ。ただ、東京の中心部ですと、かなりいるんですよ。そうすると、仕事と子育ての両立で、なかなか難しくなりますね。また、在宅で子育てされてる方、その孤立の問題など、深刻になってます。また、仕事が忙しすぎる。長時間労働、かなり頑張ってる日本人多いですからね。そして、最後に挙げましたが、住宅費が高すぎる。これはですね、もうニュースにもなりましたが、東京の方ですと、平均の新築の販売価格が1億円という世界ですよ。名古屋市においては、そこまではありません。3分の2ぐらいだと思います。ただ、だんだんやはり高くなって。若い世代が住宅を取得しにくいということは、なかなか、できるだけその負担のために子育てというものがなかなか難しくなっていくということが、繋がっていく可能性が高いと見られます。

(0:48:00)

では、これを学術的に整理すると、こうなるんです。

出生率を低迷させる主な要因を分解していくと、未婚化を進めてる要因と、夫婦の子ども数を減らしてる要因があります。そして、それぞれについて、大きな要因から、2番目、3番目、4番目と、整理できるわけですね。本日は、時間の関係上、この辺りははしょっていきたいのですけれども、ただ、ご覧いただくとうかります通り、たくさんありそうですよね。そうです。私が今日申し上げたいことは、たくさんあるということなんです。我が国の少子化、かなり長い時間かけて進んできたと申し上げました。

その間に、子どもにかかる費用というものは上昇し、親世代の稼げる力というのは相対的に弱くなり、そして、共働きは進むけれども、なかなかそれを補う環境というのではない。また、それ以外にも、地域の社会の変化等々、そうした

ものも重なり、今では少子化を進めているような要因ですね。
かなりたくさんある。これが残念ながら現状だということです。そうなりますと、どうしたらいいかという、時間かかりますが、1つ1つ解決してあげるしかないのではないのでしょうかということです。そこで、これまでの少子化対策を見ていきましょう。

少子化対策については、なかなか皆様も、いや、これでいいのかですとか、あるいは不十分ではないかという、お考えをですね、かなりお持ちの方もいらっしゃるのではないかと思います。私も、研究者として、あるいは1人の親として見るとどうだろうというところがあります。ただ、少しポジティブにも今日は見たいと思います。

(0:50:03)

これは、我が国の少子化対策の推移をものすごい簡単に表にしたものです。拙著にそのままありますけれども。

わが国、1990年代から少子化対策を始めました。

当初はですね、これ第1期、第2期、第3期、私の整理ですけども、90年代、第1期としましょうか、保育中心だったんですよ。

最初はエンゼルプランです。そして、緊急保育5か年事業ですか、保育対策だったんです。その後、第2期ですけども、保育とワークライフバランス、これを両輪として少子化対策がなされるようになりました。

そして、第3期ですね、これが、2010年代半ば以降になりますけれども。従来の対策では出生率がなかなか回復しないということで、対策の幅を広げたいんです。具体的には、結婚支援というものがこの辺りから徐々に広がってきます。

それから、地方創生という視点が入り、不妊治療の助成というものが拡充され、今度保険適用ですね、されるに至ったなどなどあります。

幼児教育無償化もここからですね。で、このように見ていただきますと、少子化対策、実はかなり進んできた、進めてきたというのが分かるということです。まだ不十分ではあるかもしれませんが、短期間にこれだけ拡充したということは一定の前進だと私は思います。そして、今何が、岸田政権でされてるかという、従来のものに加えて、さらに幅広く実施しようとしています。それは、すべての子ども、子育て世帯を支える方向で少子化対策を拡充していくということですね。

1つ大事な方向を目指していると私は考えております。

(0:52:06)

で、その日本の少子化対策、進んできたことを評価できる数値的なデータです。これは何かと言いますと、ちょっと言葉が難しいですけども、家族関係社会支出と言います。それは、あの OECD の定義なんですけれども、子育て支援にどれだけお金をその国が使っているかということです。GDP 比です。これで見ると、これが現金給付、児童手当などですね、こちらが現物給付、それは保育や育休や等々ですね。現物ですね。ご覧いただくと、実は現物給付の方はですね、相当今拡充してきましたので、現時点において、少なくとも金額ベースでイギリス並みですよ。あるいはフランスにもかなり迫っている。

そこまで来てるんです。足りないのは何かというと、現金給付です。で、これはかなり異論もあることもあり、なかなか進まない、また、財源の問題も。ただ、現物給付に関しては相当拡充されてきた。これは、この国の少子化対策の前進であると思います。ちなみに、イギリス、フランス、スウェーデンという、主要な欧州諸国にとってきましたけれども、もう 1 つ、韓国を入れています。韓国というのは、このニュースをご覧いただいた方でご存じの方もいると思いますけども、先進国の中で、最も出生率が低くなってます。0.7 台ですね。

様々な要因がありますけども、少子化対策の方でも、課題がある。理由は何かというと、

少子化対策に十分な予算を投じられていないという、そこにありますね、特に、現金給付ですね。それは、隣国においても、これから課題になる対応することが求められるものになるとみられます。

こちらですね。失礼しました。では、求められる少子化対策の方向性はどういう方向だろうかという話をしたいと思います。

簡単にここまで申し上げてきましたが、少子化対策、かなり拡充されてきましたが、少子化の要因というものはたくさんあるという話をしました。

結婚が難しくなってる要因がある。また、結婚したご夫婦が子どもをもうけることを難しくしてる要因もある。その他にももちろん、色々な要因があります。

(0:54:42)

では、少子化対策、どういう方向が大事だろうかということです。ここからは、私の説になります。

少子化対策の提案として、シンプルに、すべての子どもとすべての家庭を支えるのが、単純で 1 番効果的ではないですか。というのが私の問いかけです。具体的に 3 つ言いましょう。1 つ目は、ライフステージです。

結婚前から子どもが巣立つまで、できるだけ長い期間を、何か困ったことがあ

れば、それを支えてあげる。

そうしたものが1つ必要であると思います。2つ目です。

特定の家庭では、ご家庭ではなく、全ての子育て家庭を支えられる制度というものが、子育て支援等においても大事ではないでしょうか。なぜこう申し上げるかという、若干そうではなかったところもあるんですね。

具体的に申し上げますと、我が国の少子化対策、保育から中心で来てますよね。

ワーク・ライフ・バランスがそこに入りましたねと言いました。

両方大事です。あのタイミングで過去にそれがなされたというのは、必要なことであったと思います。

しかしながら、そこで重点的に支えられたご家庭というものは、どうもですね、振り返ってみると、正社員同士の共働きご夫婦はかなり支えられるようになった。しかしながら、非正規で働いてる方、あるいは、専業主婦世帯や、専業主夫世帯ですか、こちらについては十分支えられてこなかったのではないかと、ということが今までの制度からは示唆されるということがあります。

3つ目です。ここがハードルが高いんですけども、我が国では現物給付と現金給付、両方大事ではないでしょうかねということです。

現物給付、かなりの水準に來ました。まだ拡充する必要があると思います。一方で、現金給付の方は、あまり十分ではないです。これはお金を渡せばいいのか、あるいはお金の代わりに、例えば、教育の無償化ですとか、あるいは住宅費の支援ですとか、そうしたもので補うべきか、議論は分かれるかもしれませんが。しかしながら、経済的なご負担、若い世代の、それを支えるような制度の拡充というものは、求められるのではないかと思います。このように書きましたが、1番上の方にですね、最初のところとリンクするところがありますので、少し申し上げますと、少子化対策を考える時に、あの、大前提としては、結婚を希望する方ができるようにしていくと、出産、出生ですね、子どもをもうけることを希望する方ができるようにしていくということです。ということは、それを望まない方は結婚をしない選択肢を選ぶべきでしょうし、あるいは子どもをもうけたくないという方はそのような選択肢を選ぶべきだと思います。で、その上で、出生率が回復するにはどうしたらいいかということ、希望する方をできるだけ幅広く応援していくということではないでしょうか。

(0:58:26)

では、それが有効だという話をしたいと思います。で、1つ目です。私の大学院時代の恩師の研究からですけども、日本とアジアの主要国、発展してきた国ですね、比較した研究があるんです。そこで何が分かったかということ、日本よりも実は東アジアの国というのは出生率が今低いんですよ。なぜ低いのか見て

いった時に、実は日本の女性、そして結婚したご夫婦の就業パターン、就業形態ってというのがかなり多様である、また、もうける子どもの数も違いが大きいということが分かったですね。つまり、結婚して、あるいは結婚して子どもをもうけないご夫婦もいます。一方で、子どもを3人以上もうけるご夫婦もいるんです。ところが、アジアの主要国ではどうなってるかというと、それが結婚しない方向に、そして子どもを持っても2人あるいは1人という方向に収斂していった、で、それで、出生率が下がってるんですね。日本の場合は、それがある程度、多様なパターンであるということです。そうすると、幅広い方を支えるということ、それは、多様性に対応するということになるかと思えます。で、それを具体的に申し上げますと、子育て期、正社員同士で共働きをしている家庭ですと、長時間労働をどうするか、あるいは、保育園をもちろんそれに対応してどれだけ長い時間、預けられるか、などが課題になるかと思えます。一方で、在宅で子育てされている方、専業主婦世帯・専業主夫世帯になると、子育てにおける孤立の問題があったり、そうしたものです。それぞれの働き方が違えば、抱えている子育ての問題も違うということです。それに対応することが必要ではないでしょうかということですね。

最後、3つ目、我々の研究からですが、幅広い子育て支援、これ結婚支援も含めます。それをすることが大事ではないですかというのが今私が申し上げていることですが、実際にそれを行っている自治体は、それを行っていない自治体よりも出生率の変化率が有意に高いです。これですね、あの統計的な分析です。めちゃめちゃ大きいわけではない。残念ながら。変化率について。ただし、意味のある変化をしています。

で、今日は名古屋市様の、シンポジウムですので、他の特定の自治体を名前を挙げて褒めることはやめたいと思いますが、新聞やニュースで子育て支援をしているかなりの自治体、出生率が回復した自治体と言われているところ、もし報道されましたら、よく注意してご覧いただくと嬉しいです。行っていることはこれと同じです。幅広く支援しているということです。逆に言いますと、これも我々の研究からですが、ある1つの施策、すごい特徴的な施策を行っている自治体があるとしましょう。それによって出生率が回復した事例はないと思いますよ。

幅広く行う。これ、一見すると、効果が弱いように見えますけども、実際は多くの方が結婚し、そして子どもを産み育てることができるようになる。で、そのことによって出生率がプラスに変化していくというものではないかと私は思います。ここまでが、全国的な視点でありました。

(1:02:33)

ここからは名古屋市様の、総合計画の話も受けまして、名古屋市の少子化と対策の話の話を短くお話ししたいと思います。まず、名古屋市の出生率ですね。これ、ブルーが全国です。このオレンジが名古屋市様ですね。かなりリンクしているのがわかります。名古屋市の出生率、最新時点で、1.33 ですか。もう少し新しいのが出ていませんけども、この図ではですね、1.33 になってます。当時、同じ時点での全国が 1.34 ですから、ほぼ同水準になっているってことですよね。自然減を長期的に止めていくには、2.07 ぐらいの出生率必要になると言いました。ただ、名古屋市様におきましては、転入がありますよね、ほかの自治体様からの。それを踏まえると、出生率の水準というのは低くはないと思います。ただ、できればもう少し出生率が回復していくと、名古屋市としても、そして愛知県全体としても、人口の維持、そして社会の発展、これはよりやりやすくなるとみられます。

ちなみに、1.33 と言いましたけども、東京都のですね、中心部はこう、1 以下ですからね。それと比べると、名古屋市というものがいかに出生率が高いか。比較的、相対的にですね。高いかということが分かるかと思います。

では、名古屋市の次期総合計画の中間案、先ほどご紹介されたものですね。その中から一部抜粋したいと思います。

中間案には、こういう文言が書かれています。1 番目ですね。「子どもをどまんなかに据えた“人”中心の社会を実現する」とあります。これは、今の政権が、子ども中心社会というものを掲げているんです。そして、少子化対策を進めようとしている。全ての子どもを支えていくってことです。かなりそれと近いと思います。この資料を拝見した時、そう思ったんですよ。

ただ、実は国のものと違いました。よくご覧いただくところに、「ど」が入っているんですよ。「子どもどまんなか社会」になっている。これ、河村市長のキャラクターかもしれませんが、気持ちの入りようが国とは違うという感じですね。子どもを本当に中心に据えて、そこから色々な支援制度ですとか、もちろん教育も含めてやっていこうという姿勢ではないかと思われます。

2 つ目です。「人口減少の抑制も念頭に置きつつ、名古屋で「住む」「働く」「結婚する」「子育てする」という希望を叶えられる社会をつくる」ということです。希望を叶える、これは非常に大事です。そして、そこにですね、少子化対策と考えてしまうとどうしても、少子化対策という視点だけで考えてしまうと、どうしても結婚支援と子育て支援と思ってしまいうんですけれども、その前の段階である住む、働く、これも大事だと掲げられています。非常にこれはポイントではないかと思います。

(1:06:15)

そして、名古屋市の強みを活かすということで、これは先程のビデオの中にも文言があったような気がします。総合計画の中間案からですね。名古屋市の強みということを見させていただきますと、名古屋市は、本当に色々な強みがある、強い自治体であるということが分かります。これはお世辞ではありません。これは本当です。

少子化対策に関わることを2つ挙げておくと、1つ目がこれですね。「空間的・時間的ゆとりがあり、子育てしやすく、便利で快適な住みやすい都市」。これが強みだと書いています。特に赤い字のところはですね、すごいことです。何かと言いますと、子育てしやすく便利で快適な、住みやすい、簡単に書いてありますけども、なかなかこれ全部をできる自治体ってあまりないと思いますよ。

大都市というものは、一般的にですね、東京でも、おそらく大阪の中心部でもそうだと思います。便利で快適です。しかしながら、必ずしもそこで若い世代が住みやすいか、あるいは子育てしやすいかという点と別だと思います。それを両方できるということは、この名古屋市の強みだと見られます。

もう1つですね、「世界レベルの産業技術や商業・サービス業が集積」している。これも、非常に恵まれたポイントだと思います。世界的な大企業、あるいはその企業グループがありますよね。それだけではないです。日本全国あるいは世界に誇れる企業というのは、愛知県にはたくさんあるんですよ。名古屋市にたくさんある。そして、その傘下の企業や関連企業まで含めて幅広い人ができるだけ比較的良好な雇用に浴せる。これが名古屋市の強みではないかと思えます。最後に、講演者、私からなんですけれども、この強みをぜひ、これからですね、もう生かしていただきたいというのが、研究者としても思うところでございます。

少子化対策にもこれは寄与する強みだと思います。具体的には、1つ目として、空間的、時間的ゆとりがある、これは非常に大事ですね、子育てをする上では。そして、産業、経済の力が強いということは、若い方ができるだけ良い職につき、そして賃金が上がり、そして家族形成しやすい、こうつながっていく、循環につながっていくことを期待したいと思います。

最終的には、出生率ですか、名古屋市の出生率、あの、決してすごい低いわけではないです。しかしながら、それがもっと上向いていただけると、これは名古屋市におかれましても、愛知県においても、そして全国においても、出生率の回復と、そして人口減少の抑制に寄与すると思います。

ということで、最後はですね、褒めすぎたかなという気もするんですけども、ただ、名古屋市の強さというのは疑いのようのないものであると思います。

簡単ではありますが、私からの講演は以上とさせていただきます。ご清聴ありがとうございました。

(1:09:58)

司会

松田様、どうもありがとうございました。少子化に歯止めをかけるためにはどのような対策をすればよいのかについて、わかりやすくご説明いただきました。

皆様、今一度、松田様に盛大な拍手をお願いいたします。

ここで 10 分ほど休憩の時間を設けたいと思います。

19 時 20 分に再開いたしますので、それまでにお席にお戻りくださいますようお願いいたします。

休憩

(1:10:35)

司会

皆様、お待たせいたしました。ただ今よりトークセッションを開始いたします。

まずは、ファシリテーターとゲストの方々をご紹介します。ファシリテーターにお迎えするのは、名古屋市立大学 大学院人間文化研究科 教授 上田 敏丈様です。

上田様は、保育学、保育者の専門性研究がご専門で、日本保育学会理事や名古屋市教育委員会幼児教育アドバイザーなどとしても幅広くご活躍されています。

ゲストとして、先ほど講演された中教大学 現代社会学部 教授 松田 茂樹様、そしてお笑い芸人 キンタロー。様、

BOYS AND MEN 辻本達規様です。

キンタロー。様は愛知県岡崎市のご出身。デビュー 1 年で前田敦子さん、光浦靖子さんなどのものまねネタでブレイクを果たし、現在も多方面でご活躍されています。

2020 年に第 1 子を、翌年に第 2 子を出産されております。

辻本達規様は、名古屋を拠点に活動を行うアイドルグループ BOYS AND MEN のメンバーで、人気番組ボイメン体操では、体操のお兄さんとして、名古屋市を含め、愛知、岐阜、三重の幼稚園、保育園を訪問し、多くの子どもたちと触れ合っております。

本日は、少子化への対応、子育て支援を題材にしてトークセッションさせていただきます。

それでは、いったんファシリテーターの上田様にマイクをお渡しして、トークセッションを進行していただきます。上田先生、よろしくお願いいたします。

(1:12:51)

名古屋市立大学 大学院人間文化研究科 教授 上田 敏丈氏（以下、上田氏）

はい、よろしくお願いいたします。先ほどご紹介いただきました名古屋市立大学の上田といいます。短い時間ですけれども、少子化、子育てといったところで、トークセッション始めさせていただければというふうに思います。まず、最初に、松田先生の方から先ほど基調講演の方いただきました。非常に少子化を考えていく上で重要なお話ではなかったかなというふうに思います。

特に、多様な今の社会、多様な価値観っていうものが、生まれてきていてですね、それに対してきちんと対応していく、そういった、社会制度、政策というものが必要であるということが非常に興味深く聞いておりました。その中で、今日のトークセッションについては大きく2つぐらいのトピックになるかなというふうに考えております。

1つが、まず、結婚というところと、もう1つ、出産、子育てというところになるかなというふうに思います。

松田先生のお話にありましたように、いわゆる皆婚ですね、みんなが結婚して、みんなが2人ずつ子どもを持つというような社会というのは、当然ですけれども、これからは非常に難しいんじゃないかなというふうに思っております。

そういった中で、多様な結婚のあり方、出産のあり方というところがあるんですけれども、特に若い世代の結婚観といったところについてですね、ご自身、アイドルとして、活躍されている辻本さんに結婚に対しての意識とかお考えというのをまずお話ししていただければいいかなというふうに思っております。よろしくお願いいたします。

BOYS AND MEN 辻本 達規氏（以下、辻本氏）

お願いします。僕自身、現役のアイドル、BOYS AND MENということで、ちょっと結婚についての話はNGなんですけれども、僕自身も、絶対に結婚したいなって、子どもの頃からずっと思ってますし、僕が、4人兄弟の末っ子なんで、僕も結婚して、できれば子宝に恵まれれば、4人、あるいは5人欲しいなと思ってるので、今、年齢が32になったので、そろそろスタートしていかなないと間に合わないのかなとか、色々考えてますけど、僕が、岐阜出身なので、

結構、岐阜の周りの子を見ると、やっぱり早い段階で結婚する人が多くて、どちらかというと、田舎の方なので、結婚もわりかし早い傾向にあったりするんで、僕ぐらいかな、まだ、結婚してないのはって感じです。できれば、早めにしたくなって、思ってますけど、現役アイドルですが、会社から結婚ダメだよって言われたこともないですし、ダメだよって言われたところで、僕の人生なので、いい出会いと縁があれば、していきたいなと思っています。

(1:16:15)

上田氏

ありがとうございます。非常に、アイドルなんで、踏み込みにくいところを踏み込んでいただいて、助かりました。

先ほど、ちょうどいい出会いがあればということで、松田先生のお話の中にですね、適当な相手に巡り合わないとかですね、そういったところがあったかと思います。アイドルなので、余計、巡りが多いのか少ないのか、ちょっと判断つきかねるなというところはあるんですけども、その辺についてはいかがでしょう。

辻本氏

そうですね。芸能界の世界でお仕事させていただくと、綺麗な方だったりとか、たくさんいらっしゃいますし、現場でお見かけすること多いんですけど、1番は美しいファンの方がたくさんいらっしゃるんで、そういった意味では、出会いは多いのかなって思われるかもしれないんですけど、実際、お仕事中に恋愛に発展するのかっていうところは、1人1人感覚が違って、僕自身は、仕事モードになると、仕事にまっすぐ入っちゃうので、周りの目とかも、もちろんありますし。って考えると、プライベートな時間に出会うしかないのかなと思うんですけど。ま、プライベートも、僕、お酒とかも飲まないし、夜出歩くことがないんで、休みができれば、キャンプかサウナか野球っていう。基本、男性と一緒にいるっていう感じなので、僕自身の感覚でいくと、あんまり多くないのかな、チャンスというか、巡り合うタイミング。皆さんが思うほど、結構、ボイメンっていうグループが、下っ端集団って感じで、あの、いろんな番組に行っても、とにかく下から、あざすあざすって感じなので。なんかね、あのムーブをしてながら、裏でこっそり女の子と、こう、なんかLINE交換してみたいなのは、ちょっと僕の中ではカッコ悪いなと思ってるので、意外とそう考えると、じゃあやっぱりプライベートしかないなってなって、結構狭まっていく感じはあるから、今までなかったのかもしれないですね。

(1:18:50)

上田氏

なるほど。ありがとうございます。

適当な相手に巡り合わないっていうのは、僕の感覚的なところで失礼ですけども、学生なんかにもよく言っているかなという風に思うんですけども。一方で、マッチングアプリで結婚した卒業生なんかにもちょいちょいいたりしてですね。そうすると、この適当な相手の適当って一体何だろうかとかって、ちょっと思ったりするんですけども。辻本さんの方で、例えば、こういった相手だったら結婚考えるかなとか、そういったのはいかがでしょう。

辻本氏

そうですねえー、僕自身、それこそ、マッチングアプリみたいな、辻本達規って入れてやるわけにはね、行かないんで。やったことないんですけど。実際に会って、なんかいいなって思う方が、現れるのが、やっぱり1番だなって、僕は思うんですけど。働いていたりとか、専業主婦でも、どちらでもいいんですけど、僕自身が、勝負に行くようなお仕事をすることが多いので、そういう意味では、できれば支えてもらえたら1番いいなって思ってるのが、理想なんですけど。なんて言うんすかね、収入がこんくらい欲しいとかっていうのは、僕はあんまなくて、当たり前な、わかんないんですけど、感覚が。とにかく、一生一緒にいたいなって思える人ならいいのかなと。あとは、もう、僕が頑張って仕事して、子ども4人育てる財力を何とか捻出すると。ま、僕自身も元々ね、お家が裕福だったわけではなく、4人兄弟で、カツカツでやってきたんで、そういう意味では、そういう生活も子どもの頃からしてきて、それが不幸だったかって言われたら、そんな不幸だとは思わないし、むしろ幸せだったと思うんで。ま、ちょっと子どもには、新しいランドセルとか習字道具とか買ってあげれずにお下がりになるかもしれないですけど。

みんなで和気あいあい、楽しく一致団結して過ごせる家族を作りたいんで、そのモチベーションに付き合ってくれる女性がいいですね。

上田氏

ありがとうございます。きっと、この会場にいたりとか、YouTubeで見てるボイメンファンの方はきっとチェックをしているんじゃないかなという風に思いますけれども。

(1:22:02)

辻本氏

どうですか、キンタロー。さんは。

お笑い芸人 キンタロー。氏（以下、キンタロー。氏）

私もね、アイドルだったんですけども、卒業して

出演者

（笑）

キンタロー。氏

AKB48 は嫌いにならないでください。

辻本氏

何言ってるか分かんないす。

キンタロー。氏

卒業して、あの、無事に結婚フライングゲット、できました。

辻本氏

そんな早くなかったですよ。そんなフライングではなかった。そうですね、どちらかというと。

キンタロー。氏

えっと、35 くらいですね。フライングではないです。はい。という感じでございますね。

辻本氏

はい。でも、やっぱり芸能界にいと、婚期みたいなのは、やっぱり普通よりも若干、遅くなりがち傾向にあるのかなと思うんですけど。

キンタロー。氏

そうですね。やっぱりあの、仕事に乗っている時は、やっぱり仕事に集中したいっていうところで、遅れがちなんじゃないかなと。

辻本氏

逆に、仕事に乗ってない時は、結婚するような、財力だったり余裕もないです

もんね。

キンタロー。氏

そうですね。でも、ちょっと時間できたら、今、婚活パーティーだったりとかあるらしいので、東京では、女性は結構お安めに行けたりとかからしいので、そういうのも探すと、あるのかなっていう。

辻本氏

逆に名古屋に住んでるこの芸能というかタレントだと、余計、また東京とは違うのかもしれないですね。同業者も名古屋にほとんどいないっていう状況なので。

上田氏

お仕事もね、東京に行ったりすることがやっぱ相当多いですよ。

辻本氏

そうですね。多いですけど、名古屋でレギュラーを持たせていただいたりとかするんで、結構トンボ帰りが多くて。なんで、じゃあ、東京でゆっくり泊まってとかっていうのが意外と少なかったりするんで。仕事も、東京だったら東京で全部揃えて、詰め込まれたりするので、意外と東京のタレントさんとか、お笑い芸人の方とかと、会うのも結構一苦労だったりするんで、意外とボイメンは特殊かもしれないですね。

(1:24:24)

上田氏

なるほど、ありがとうございます。キンタロー。さんの方も、そういった意味では、お仕事のこととかも含めて、実際に結婚をされてよかったこととか。タイミングとか、どういうタイミングで、結婚されたのかとか、その辺、ちょっといかがでしょう、教えていただければと思います。

キンタロー。氏

結婚して、良かったなって思うのは、いい意味でも悪い意味でも、1人の考えではなかなか突き進まないでいくというところで。1人では、1人の良さがあるんですけども、ややもすると突っ走ってしまうところとかある中で、結婚したことにより第三者が増える。

結婚相手なので、結構赤裸々に自分の思いっていうのをシェアできる。その上

で、僕はこう思うんだよとか、その反対意見だったりとか、っていうところで、協調性が出てくる。

割と人より協調性のない人間だったところがあるので、そういった意味で、そういう考えがあるのねなんていうところで、暴走するのを引き止めてくれる存在っていうところで、すごく、それは本当に結婚してよかった部分あるなっていうのと。タイミングにおいては、私、実は、名古屋瑞穂区田辺通り 6 丁目に住んでたんですけど。

辻本氏

もう全部言った。はい、丁目まで。

キンタロー。氏

はい、フォレスト太閤ってマンションで。

辻本氏

全部言っちゃった。

キンタロー。氏

ちょうどその時期に、28 歳ぐらいだったんですね。

とっても結婚ラッシュなんですよ、女性にとって。28 歳っていう、やっぱり、結婚式にお呼ばれなんかして、お友達の結婚式の美しい姿を見て、なんかもうほんとに、幼少期の VTR からの、出会いからの、あの感動 V を見せられ、いつか私もって思って、そういう影響を受けて、早く結婚したい、私だってっていうね、やっぱ、28 歳の時に結婚したい願望すごいきていて、もうほんとに結婚したかったの、その時期。だから、もうほんとに、瑞穂区あたりとか、天白区あたりとかで、ほんとに探していた、結婚相手を。結構、突き進むタイプなので、割と狩りに言っていたんですけども。

辻本氏

狩りに。

キンタロー。氏

はい、うん、さあ、見つけるぞ。ってことで。

辻本氏

さっきからちょいちょい挟んで、それなんすか。

キンタロー。氏

28 歳、キンタロー。の私です。田中しほっていう。なんですけど、もうほんとにうまくいかなくて、もうことごとく断られ、振られ、なんで。って思っ
て。山崎川沿いで毎朝ランニングしてたんです。そしたら、悟りを開いたんで
す。私はなんでこんな結婚したいんだろうってすごいその時思ったら、そう
か、誰かに幸せにしてもらいたかった。

辻本氏

出た。女の子。

キンタロー。氏

思っていた自分に気づいた。そしたら、そうじゃないだろうって。幸せは自分
の手で掴み取るものだろうって思ったんです。

辻本氏

思っただけかい。誰かに言われたぐらいの熱量やけど。

キンタロー。氏

自分で気づいたんですよ。で、そこからスーって 1 回、あの結婚したい願望が
ふーって、自分でつかみ取ろうぜってなって、お笑い芸人目指して、お笑い芸
人フライングゲットなって。そしたら、全然結婚願望がないタイミングで、ポ
ロっと運命の相手が現れたっていう。もうほんとにタイミングっていうのは人
それぞれだと、ほんとに身に染みて感じましたね。躍起になって結婚してくだ
さいって。

辻本氏

こっち向かないでよ。

そんな。そんなんってたらわかるでしょ。28 歳だったら怖い怖い怖い。漫
画みたいな顔してます。

キンタロー。氏

ほんとに温度差が、温度差がすごいんですけど、伝わってますか。タイミング
はほんとに人それぞれで、もう躍起になっちゃダメ。リラックスしていた時にふ
っと現れるんだなって思ったっていう話ですね。

辻本氏

確かに、作りたい作りたいの時期の方が多分できない。

キンタロー。氏

そう、逃げてくんですよ。ほんとにそうなんです。

辻本氏

躍起になってるとね。

キンタロー。氏

当時は気づかない。こういう顔してるって気づいてないじゃん。しかも。

辻本氏

鏡見なかった。

キンタロー。氏

見てない。なんで逃げてくんだろうって。こういう感じです。

辻本氏

という感じです。はい。

ありがとう、上田さん。お願いします。

上田氏

でも確かにね、あの…。

辻本氏

困っちゃった。上田さんが困っちゃった。

キンタロー。氏

すいません。嫌いにならないでください。

上田氏

山崎川走ってたんだと思って、情景が。

キンタロー。氏

春、春には焼き芋が販売される。川沿いで。

上田氏

桜が綺麗ですね。ありがとう。

辻本氏

そんな話しに来たわけじゃないですよ。

(1:30:00)

上田氏

ありがとうございます。そういった中で、お2人の意見を聞いて、若者の結婚観というところですね。あの、松田先生にちょっと無茶振りのところまとめていただこうかなと思いながら。

松田氏

あの、まとめるのは難しい。

辻本氏

難しいですよ。

松田氏

結婚の分析って結構あるんですよ。そことすごい符合することをおっしゃったところがありまして。で、1つ目は、この人ならという、気持ちや、価値観が合うみたいな話が最初でありましたよね。

辻本氏

僕の方からです。

松田氏

確かに、どういう人をパートナーとして求めますか。という調査があるんですよ。で、1位は、やっぱり価値観なんですよ。ひたすら。

辻本氏

価値観がね、あった方がいいですよ、大事なんで。これ。

松田氏

全くその通りだと思います。で、2つ目は、逆に私から後で質問したいなと思

ってたことなんですけども、日本の場合、職場での出会いってというのは結構多いんですよ。でも、職場以外ってなかなかないんですよ。職場は職縁にしましょう、仕事の。

そうすると、先ほど伺っていた、芸能界という縁では、探す方が多いですけど、それから少し離れると、そこではなかなかやっぱ見つかりにくいものなんでしょうか。

辻本氏

そうですね、僕ぐらいまだまだこれからっていう人間でも、地元だったり、東海エリアとかだと、ありがたいことを知っていただけてることが多いんで、そうすると BOYS AND MEN の辻本達則として見られてしまうので、そうなってくると、こっちもちょっとこう、距離を縮めづらかったりとか、恋愛に発展しづらいような感覚がやっぱあるので。

できればこう、自分のこと全く知らない、仕事も何してるかわかんないような状態で出会えたら 1 番いいなって個人的には思うんですけど。やっぱそれが、僕でさえあるってことは、やっぱ東京のタレントさん、俳優さんとかだったらよりあるだろうし、なんか恋愛はやっぱフェアにしたいじゃないですか。

ていうところで、なかなかこう、なかなかフェアに向き合う土台が作りづらいのが芸能だと思うので。なので、職縁じゃなくて、1 個外に出ると、若干しづらい部分があるのかなって感じますね。

松田氏

ありがとうございます。ついでにもう 1 つもいいですかね。キンタロー。さんがタイミングは人それぞれだとおっしゃったんですよ。

研究者ってタイミングってやっぱいいものがあるんじゃないか、ベストがあるんじゃないかって考えがちなんですが、おっしゃる通りだなと思って。

これではもう感想だけなんですけども。

キンタロー。氏

統計がちゃんとそういう、人それぞれの結果があるんですか。

松田氏

人それぞれといかないんですよ。分析する方って、出会いやすい年齢があるんじゃないかみたいな話を。

キンタロー。氏

そういうのまたデータあると焦るんですよ。やめてください。

松田氏

失礼いたしました。

キンタロー。氏

やめてほしいです。出さないで欲しいです。データは。

辻本氏

女性の意見ですね。ま、男性もそうかもしれないですね。

上田氏

いや、本当ですね。なかなか適齢期とか言われると。

キンタロー。氏

やめてほしいです。そういうの本当に人それぞれのタイミングなんで。

辻本氏

確かにそれはそうだね。それは。

上田氏

そうですね。ありがとうございます。はい。そういった中で、結婚のといところ、トピックに少しお話掘り下げさせていただきました。

(1:33:33)

上田氏

もう1つの方ですね、特に子育て、少子化の中で子育てというところで、松田先生のお話をずっと伺っていきながら、やっぱり今の社会っていうのは、かなり女性の就労率っていうのが、ずいぶんと上がってきている。

僕は保育学の方が専門にはなるんですけども、名古屋市においても、幼児の人口、0歳から5歳の人口って、もう年々すごい勢いで減ってるんですね。

でも、名古屋市の全体としては保育所が足りない。

一応、待機児童ゼロはずっと続いてるんですけども、それでもニーズが足りないところが出て、保育所つくってる状況が続いてます。

これはなぜかという、利用されるお子さんがどんどん増えていってるわけですね。

それはどういうことかという、つまり、女性の社会進出というのが、非常に進んでいる。そうしますとですね、うちの卒業生なんかもまあそうなんですけれども、短大、大学出て行って、まず社会の中で自分がどういうふうに働いていくのか、社会の中でどういうふうに生きていくのかっていうのがまず一番最初に念頭に來ていて、そのあと、家庭とかっていう順番に、なってるんじゃないかなというふうには思います。そういった中で、社会全体として、両親、夫婦共働きで、お子さんがいる、そういった家庭をどういう風に支えていくかっていうことが、重要になってくると思うんですけども、そういった中で、キンタロー。さんの方にですね、ぜひ、仕事、しかも、芸能人という、ハードワークをされながら、子育てっていうことをされている、ご経験、大変なことであったりとか、逆に、そういったことを両立させているようなコツであったりとか、困った時に助けてくれた人とか、そういったところをぜひお聞かせいただければと思います。

キンタロー。氏

はい。そうですね、芸能界という仕事場はですね、普通の職業に比べたら、ほんとに時間の定時がないというか、もう今日は朝6時からで、1時に終わったとか。で、次の日はもう夕方5時からとか。もうバラバラのことが。もちろん、その一流芸能人様たちは、もうレギュラー番組などをフライングゲットされて、あの決められた時間に出社されてる方もいる中で、ちょっと、私みたいな弱小的な、芸人とかはですね、明日はどこに、今日はどこにいるんだ。みたいな、毎日、バラバラの中なんです。その中で、子育てと両立したいなっていうところだと、もう、絶対1人では無理というところで、やはり、旦那さんとスケジュール合わせながらだったりとか、時には、ちょっと連れてきたりとか、まちまちのスタイルの中で、やりくりをしていたりするので、本当に、助け合いというか、周りの人の助け合いで、特に、私の両親はもう他界していませんし、夫のご両親は九州に住まわれているので、気軽に頼めるような距離ではないっていうところで、ご近所付き合いの中で、なんか、見てくれるよって、紹介してもらったりとか、人の助けによって成り立ってるなっていう。だからこそ、ほんとに、コツっていう、私が言うのもおこがましいんですが、でも、体験してみて思うのは、全部1人でやろうとしすぎないことだと思って。素直に、本当に助けてほしいですっていうのを、言ってみるっていうところが、まず。ほんとに、1人で全部やろうとしすぎちゃう。ついつい、やっぱり女性とか特に、頑張ってるぞ。みたいに意気込みすぎて、気づいたら、1人ではーってやってたら、もういっぱいいっぱいに、気づいたらなってるんですけど、その気付くのが遅くなっちゃったりとか。

だから、もうほんとに頼っていいんだってところで、自分に許してあげるんです。助けてくれた人にも、本当に心から感謝をして、ほんまありがとう。感謝、感謝やで。って感謝の気持ちですね。
素直に助けてって、助けてもらった感謝感謝っていう毎日かなと思いました。

(1:38:29)

上田氏

ありがとうございます。そうですね。でも、そういった中で、例えば、どうしてもお2人のタイミングが合わない場合はどうされてたんですか。

キンタロー。氏

そうですね、もう、ほんとに、方々を探したりとか。ほんとにそれでもダメな時に、ちょっとほんとに連れていく。毎回連れて行くのは、よくないかなと思ってるので、もちろん。なんで、どうしようもない時などは、同伴させていただいたりとか、そういう感じですね。

上田氏

なるほど。確かに芸能界だと働く時間も長い、拘束時間が長いんですかね。そういった中で、やっぱり、お子さん連れていらっしゃる方は結構多いんですか。

キンタロー。氏

そうですね。特にちっちゃい時期の、子どもだと、連れてこられてる方、よく見ますね。

上田氏

そういった中で、子育てしていく中で、旦那さんと役割分担とか。どんな感じにされてるんですか。

キンタロー。氏

そして、やっぱり、あの、男性っていうのは、もう本当に1枚も2枚も上手でして。やっぱり日本人たるもの、察しろっていう美学あるじゃないですか。察しろよっていう美学の文化。察する文化、察する文化ね。察する文化はないと思っていただきたい。旦那に対して、言わなきゃいけない、言わなきゃ。ちょっとオムツ変えてね。ゴミ捨てて行っというっていうのは言わないと。

辻本氏

誰かわかんないけどさ。キンタロー。ですか。

キンタロー。氏

家庭でのキンタロー。

辻本氏

家庭でのキンタロー。ね。

キンタロー。氏

素直に、えっと、察してほしいっていう気持ちは、もうどこかに置いてきてくださいというところで、言った方がいい。

辻本氏

なるほど。

キンタロー。氏

役割分担において、ここは助けてほしいっていうのは、言うっていうのを学びました。

辻本氏

女性側から男性に言うと。

キンタロー。氏

そうですね。少女漫画とか読んで育ってきたので。少女漫画の素敵な男性ってオラオラ系だけど、察してくれるんですね。

辻本氏

最後さ、良いところで察しますからね。

キンタロー。氏

馬鹿だな。俺がいるんじゃないか。

辻本氏

そんな白目は向いてないですけど。

キンタロー。氏

ゴミ捨て行っというたよとか。暑いだろうと思って麦茶冷蔵庫にあるよとか。

辻本氏

そんなことはない？

キンタロー。氏

ないですね。麦茶買っというてねって言わないと。

辻本氏

言わないと、買ってくれない？

キンタロー。氏

はい。そう。だから夢を見すぎちゃダメだって。

辻本氏

なるほど。でも言葉に出すことがやっぱ大事ってことですよ。本当にやってほしいことは。

キンタロー。氏

そうです。やってほしいことは素直に言葉に出さなきゃダメだと、学びました。

(1:41:15)

上田氏

なるほど。正直、耳が痛いというか。こういう話をシンポジウムでやると言ったら、お前が子育てを語るの。大体うちの知り合いに言われるんですけど。辛辣ですね。

今日の公演、ちょっと YouTube を楽しみにしてるとかって言われて帰ったらどうなるかっていう、恐ろしいところですけど。そういった中で、あの男性の家事とか育児参画について、辻本さんの方ではいかがでしょう。

辻本氏

そうですね、もう、こういう時代も時代です。あの、やっぱり積極的に男性が参加しないとイケないんじゃないかなってというのは感じていて。

もちろん、僕、4 人兄弟で。それこそ父は、昭和堅気で。えーっと、4 人も子どもいるけど、結構、母に任せっきりなところがあって。まあでも、外ではちゃんと働いてくると。それ以外は、もう俺は休むんだっていう強い意志を、家で

プロ野球を見ながら、背中から感じてたので。そういう家庭には育ったんですけど、僕自身もこうやって、まあ、ほんと子どもの頃だったりとか、あの若い時は、なんかそんなふうになるのかなって、自分自身も思ってたんですけど、やっぱりこう、今の時代を見てたりとか、あとは、やっぱり僕がどんな人と結婚するかわからないので、そのやっぱ相手の職種だったり、どういう人かっていうのによっては、全然、やっぱり僕がもっともっと積極的に育児に参加しないといけない、シチュエーションも出てくるだろうし、そういう意味では、どんだんこう積極的に参加できるような人間でありたいなと思ってますし、それができる男性の大人、大人な男性にはなりたいなって、すごく強く思いますね、ここは。

上田氏

あー、なるほど。素晴らしい、素晴らしい。

辻本氏

まあ、でも、まだやってないんでね。口だけなんで。あの、いつか結婚して、それを証明しないと。

キンタロー。氏

皆さんの前で宣言されましたからね。

辻本氏

そうですね。

キンタロー。氏

見張られてると思って。

辻本氏

えっと、YouTubeにも載っちゃった？

キンタロー。氏

はい。もう載ります。

辻本氏

アーカイブは残る？

キンタロー。氏

はい。アーカイブ残ります。なるほど、言いましたので、宣言されましたから。

辻本氏

頑張ります。

キンタロー。氏

素晴らしい。

(1:43:36)

上田氏

続いて今度、松田先生にも一度、お伺いしたいんですけれども。そういった、なんて言うんですかね、家族間とか夫婦間のあり方みたいなところは変わってきているのでしょうか。

松田氏

そうですね、やっぱり分析もありまして、それは、従来ですと、例えば肩働きという表現が適切ではないかもしれませんが、専業主婦世代ですかね、かなりの割合あったんですけども、だんだん減ってきていて、共働きが増えています。その共働きの中も、あの、働き方がそれぞれですから、おっしゃったように、長い時間働く方から、また、不規則なかたちで働く方まで、あるとのことですから、色々なパターンがあると思います。伺っていて思いましたことは、1人では、やはり家事や育児難しいと、もうおっしゃる通りですね。ちょっと私もすごい耳が痛くて、聞いてたんですけども。

キンタロー。氏

聞いてください。

松田氏

えーっと、一応データの言い訳をさせてください。

辻本氏

データがありますか。

キンタロー。氏

何ですか。

松田氏

あの、日本人男性は、やはり家事育児時間すごい短いんですよね。ですから、それを長くすることがやっぱり大事じゃないかと言われてきました。で、今ですね、育児に関しては欧米並みになりました。日本の男性の平均的な時間は欧米並み。ただ、家事をしない。ちょっと自分に刺さってますけども。ちょっとそこは次の課題かなと思って、聞いておりました。

キンタロー。氏

ほんまですね。

辻本氏

家事をしない。

キンタロー。氏

家事、そうなんですよ。

辻本氏

やらないんですか？

キンタロー。氏

そうですね、もうやっぱりそれも、たまに、もう 10 回か 15 回に 1 回、今日は、あの、お皿少ないからどうですか？洗ってくれませんか？みたいな、感じでね。でも、ほんととはどっかで、察してほしいっていう気持ち、やっぱり。

辻本氏

言うのは言うのでね、ちょっとこう、ありますもんね、言いづらいとか。

キンタロー。氏

今日は辛そうだったんで、皿洗いしといたよとかいうのがやっぱ理想なんですけど、それは起きないですね。

辻本氏。

それは起きない。

キンタロー。氏

未だに起きてないですね。

辻本氏

未だにない？

キンタロー。氏

はい、もう洗ったよとかはないですよ。やっぱりね。そう、それはちょっと懂れ。

辻本氏

でも、もしかしたら、YouTube、旦那さん見てて、家帰ったらやっというたよ。

キンタロー。氏

そうですね。

辻本氏

やっというたよ。キンタロー。

キンタロー。氏

ありがとう。っていう日が来ますかね。

辻本氏

いや、見てたらね。見てたら、ここまで言ったらやってくれたりするんじゃないですか。

キンタロー。氏

ちょっと期待しちゃうけど、そういうなんかやろうっていう感じはないんですか？

松田氏

ありがとうございます。あの、私個人は頑張ってるつもりなんですけども。でも、まさに妻が、あの妻と同じように、言わない妻ってやっぱり察してで。私、鈍いので、すかすかどんどん言うてくるんですよ。あっ、そうなんだと今日理解しました。

キンタロー。氏

なるほど。本当は、だから、ただいまって言ったら、お帰り、もうお皿も洗ったし、カレー作とったよって感じが憧れ。毎日じゃなくていいんですよ。たまにそういう日があったら嬉しいなって。

(1:46:35)

松田氏

あの、心がけたいと思います。もう 1 点質問していいですかね。キンタロー。さんが、周りのお子様を職場に連れていく、あるいは他の人に支えていただくという発言があったと思うんですね。それで、あの、こういう調査がありまして、実は、これ、東京と名古屋の調査なんですよ。で、それは、東京よりも名古屋で子育てしてる人の方が、親族ですとか、あるいは地域の人ですとか、友人ですとかの支えが多いというデータがあるんです。

そうした面では、名古屋の方が、人の支えという面で恵まれてるのかなって今思いながら聞いていました。

キンタロー。氏

すごい、そう思います、私も。

辻本氏

確かにね、親族がこう近くにいることが、やっぱり東京とかに比べると、やっぱり名古屋だったり、東海エリアの方がやっぱり多いですもんね。

松田氏

これ、明らかだと思いますね。東京はいろんな人が集まってきてますから、親御様、九州のお話されましたが、近くにいらっしゃる方ばかりじゃないですし。兄弟も近くにないですから。名古屋は、ずっと生粋の名古屋っ子がいたり。根付いてますので。

上田氏

そういったところで、最後、ちょっとだんだん時間が押してるなと思いながらですね、もう 1 つ。

辻本氏

いっぱい聞いてくださいよ。

上田氏

そうなんです、聞きたいなと思いながら。

辻本氏

現役アイドルは今日ぐらいしか答えられないです。仕事なんで、答える。

キンタロー。氏

今がチャンスです。

上田氏

子育てされてる中で大事になってくるのは、お子さんを育てていくことの、大変さもあるんですけども、楽しさとか面白さみたいなのところをどういう風に感じられたかなっていうのを、特にキンタロー。さんにお伺いしたいと思って。

キンタロー。氏

はい。私、職業でお笑い芸人をやらせていただいている中で、独身の頃ないしは子どもがいない時なんか、やっぱりお笑いライブとかに出てすべることもあるし、非常に高度な笑いを求められる瞬間っていうのがね、大人たちの前では多いというか、さあ笑わせてごらんみたいな感じで、パンキュパイなんて言ったらシーンってなったりとか。ちょっとシーン、パンキュパイ、シーンっていう時期が非常にあって。

辻本氏

皆さんプロの方ですか。今日もプロ集団が見てる。

キンタロー。氏

お笑いの千里眼の方々。やっぱパンキュパイ。こういう空気になる。

辻本氏

パンキュパイってなんすか。

キンタロー。氏

私の広めたいギャグです。ことごとくカットされる。今日はアーカイブに残るということで、惜しげなくやらせていただいている。パンキュパイ。いつもテレビでカットされてる、今日はもうアーカイブに残るから、

辻本氏

アーカイブもここだけカットできる。

(1:49:33)

キンタロー。氏

ちょっと路線がズレてきたんですけど、そんな中でやっぱり、ちょっとなんかすべったなって自信を失っていく部分ってあった。お笑い芸人を志して、芸人としてやらせていただいているんですが、あまりにもスベる日が続いたりとかすると、ああ私みんなに笑ってほしいのに、ああなんかすごい私ってダメだななんて自信を失うことって多々あった中で、すごくお笑い芸人、特に旬と旬じゃないって、もうほんとに入れ替わり立ち替わり激しい世界なので、ほんとに自信を失う瞬間っていうのがたくさん訪れる職業だと思ってらるんですね。他の分野、芸能の分野よりもすごく入れ替えが激しいと思うんですよ。お笑い芸人って。その中で子どもを授かり恵まれた中で、ほんとに純粋無垢な子どもたちと接する、我が子と接するときに、私がほんとに、いないいないバーってやっただけできゃーって笑う。もう初期の変顔で笑って、あってやっただけで笑ってくれて、ほんとに新生児の時でも笑ってくれるんですね。

その純粋な生まれたての子どもたちの天使のような微笑み、私の笑わせたいっていう気持ちで笑ってくれたっていうコミュニケーションで、私も癒されて、そして子どもたちから自信を得て、そうかって、変顔で頑張ろうなんて思ってた。

で、すごく、だんだん自信を取り戻してきて。で、ほんとに、顔の筋肉がもうどんどん活性化されて。ほんとに、2月の豆まきの時には、皆さん、豆まき鬼の仮面をかぶってやると思うんですけど、鬼の仮面いらなくなった状態で。誰かいなかった。きゃーって子どもたちも楽しんでやってくれて、で、すごく自信を取り戻した。子どもたちのおかげで、自分がやりたい分野で自信を取り戻すことができて、ほんとに子どもにも感謝感謝、ほんましてます。

上田氏

ありがとうございます。今、お話いただいた、やっぱり子育てしていく中での楽しさを実感できる、そういった社会っていうのが、どういう風に作っていかれるか今後非常に重要になってくるんじゃないかなという風に思います。子育てしているとやっぱり、もちろん大変なこととか、色々あるんですけども、先ほどお話ししていただいた楽しさっていうところが根底にある、それを支えていける社会っていうのが大事になってくるかなと思っております。まだ、いろいろとお伺いしたいところではあるんですけども、ずっと司会の方が早く終わ

らんかなとか言って、ちょっと見ていますから。

最後に、皆様から一言ずつ、今日のトークセッションを振り返ってですね、感想いただければと思います。じゃあ、辻本さんからお願いいたします。

(1:52:50)

辻本氏

辻本達規です。僕自身、この32歳でまだ結婚してないっていうこの立場で、今回のこの議題に、1番真摯に向き合わないといけない世代だになっていうのはすごく感じていて、ただ僕自身も、結婚をして子どもを授かってっていうのが1つ夢であって、でも、僕はそうだけど、結構周りを見るとまあ結婚してる人も多いけど、もうなんか結婚しなくてもいいとか、子どもももう1人でいいとか、まあいなくてもいいかなっていう風潮もなくはなくて、そういうのを目の当たりにした時に、自分が幼少期に、まあ僕はずっと野球をやってたので、いろんなクラブ活動で子どもたちが切磋琢磨をして、どんどん年齢を重ねていってスポーツ選手になったりとかっていうので、日本がすごくスポーツで元気になったり、若い力で元気になる瞬間ってすごく多かったなって、大人になったからこそ今思うんですけど、やっぱりそういうことが、子どもがいなくなればなるほどそういうことも少なくなってくだろうし、これから日本を支えないといけない我々だったり、我々の下の世代が少なくなるっていうのは、この国にとっても良くないし、実際にその世代で生きる僕らにとってもそれは由々しき問題だなと思うので、僕自身まだ結婚はできてないですけど、そういうことは、なんか呼びかけたらいいなと思ってますし、自分でもそれをこう体験していくことも大事だと思うので、もっともっと子どもが増えて、スポーツ人口もまた戻ってきて、大谷選手のように世界で活躍するような若い人だったり日本人がどんどん増えるような日本になっていけるように、ちょっとでも尽力できたらいいなと思ってます。今日はありがとうございました。

上田氏

ありがとうございます。キンタロー。さん、お願いします。

(1:55:08)

キンタロー。氏

今日は皆さんとともに、結婚、出産、子育てっていう、自分の経験を通して、皆さんとシェアしながら、問題提起というか、女性の就労率が上がってきてるんだけど保育所の設立が追いつかないとか、そういうのを今日来ていただいた中で、問題提起としてシェアできて、女性が育児しながら働きやすい環境をど

うしていくかっていうのを、こうして皆さんとともに話して、提起できたって
いうのは、非常に有意義な時間を過ごせたなと思いまして、私も今日皆さんと
話した言葉たちで、頑張っていこうなんて思ったり、女性が、男性もですけ
ど、皆さんが、未来を担う子どもたちが、生きやすい世の中にどんどんしてい
けたらいいなと思って、日本の未来を担う子たちなのでっていうところで、本
当に非常に貴重な時間をシェアいただきまして、ほんまにありがとう。感謝感
謝。最後もアンミカでした。ありがとうございます。

上田氏

はい、ありがとうございます。じゃ、松田先生、お願いいたします。

(1:56:44)

松田氏

はい。今日このシンポジウムに参加させていただいて、非常に私も勉強になり
ましたし、楽しかったです。

普段、学術系のシンポジウムとか出るんですけども、ガッチガチの話ばかり
するんですね。ただ、今日は、あのキンタロー。さんや辻本さんがいて、そし
て上田先生がいて、色々な柔らかい話をしながら、実は同じような学術系のシ
ンポジウムと同じような話をしているという点でとても勉強になりました。最
後に辻本様がさっき、もっと子どもが増えるといいねっていうの。あの、少子
化の研究者って、なかなかそれダイレクトに言えないんですよ。

ためらうところがあるんですけど、私自身もやっぱりそうだよと言われて思
いました。ありがとうございます。

上田氏

はい、ありがとうございました。不慣れなファシリテーターで、ちょっと時間
が少し延長してしまいましたけれども。トークセッションの方、これで終わりに
したいと思います。皆様、どうもありがとうございました。

(1:57:53)

司会

皆様、どうもありがとうございました。出会い、結婚、子育て、家事について
皆様に話していただき、いろいろと考えさせられましたね。皆様、今回ご出演
いただいた上田様、松田様、キンタロー。様、辻本様に今一度盛大な拍手をお
願いいたします。

以上を持ちましてトークセッションを終了いたします。

次に、名古屋市次期総合計画中間案に対する意見聴取に移ります。これより、これからの名古屋市をどうしていくべきかという観点で、皆さのご意見、ご提案をいただきたいと思います。

ご意見、ご提案のある方は、まず挙手をお願いいたします。私が指名した方に係の者がマイクをお持ちしますので、できる限りはっきりとご発言ください。できれば、計画中間案のどの部分についてのご発言かを触れてからご発言をお願いできればと思います。

発言が終わりましたら、マイクを係の者へお返しく下さい。

できるだけ多くの方からご意見、ご提案をいただきたいと考えておりますので、お1人様1分以内、1回限りで簡潔にご発言いただきますようご協力をお願いいたします。なお、発言内容は会場にお越しの皆様だけでなく、配信をご覧の皆様もお聞きになっています。他の方を不快にさせたり、誹謗中傷するような表現にならないようお願いいたします。

場合によっては発言途中であってもお止めすることがありますので、よろしくをお願いいたします。皆様からのご意見、ご提案を伺ったのちに、市からコメントいたします。

ここで、市の登壇者をご紹介します。総務局企画調整監の武田淳でございます。

総務局企画部長の塩沢洋でございます。

総務局企画部企画課長の渡辺孝彦でございます。

それでは、どなたかご意見、ご提案のある方はいらっしゃいますでしょうか。

それでは、真ん中の席の、はい、お願いいたします。

(2:01:29)

参加者①

はい、今日は参加できて嬉しく思っています。

〇〇という社会福祉法人の理事長の〇〇と申します。

あの、この基本方針の、子どもどまんなか、人中心のまちづくり、とてもいいと思いました。

都市像の2も、とても大事なことで、もちろん1も大事だと思っておりますが、これをどのような組織で進めるかって、拠点はどこでこの方向性を進めるのかっていうことをお尋ねしたいと思います。

子育て支援ですと、子育てセンターを、正規職員を置いて、どこの地域の方っていうよりも、ほんとにその周辺の中学校区の親御さんが気軽に、あ、今日もとても、子どもと、こう、イライラして困ってるっていう時に、まず行ったら

ば、ほっとして落ち着いて過ごせるとか、そういう意味では、長く、あの、その地域に根付いて仕事をしている社会福祉法人に、しかもその子育て支援センターに、名古屋市の場合は中学校区に作るという方向であるので、そこに充実して仕事ができるような人材を投入すべきだというふうにすごく思っていますので、それと、それが今、子育て支援課と、保育企画室とか、運営課とか、課が変わって子育て支援をしているんですね。で、今回のこの提案は総務局ですので、その辺どういうふうに、どこが中心になって担うのか、現場の地域では誰が中心に努力していくのかという方向性を、保育園の立場では、そのことを見つけないといけないというふうに思っていますので、ご意見をお願いしたいのと、ウォークアブルという、まちづくりについても、とても、いいなと思っています。そのことにおいて、私は、緑のまちづくりということで、地域の方と花を咲かせようよプロジェクトってやってるんですけど、あの、都市センターや緑化センターから助成金を頂いたりしてますけど、それが5万だったり10万だったり、しかも3年で終わりというものなんですね。そうじゃなくて、もっと長期的に緑化ができるように、花を咲かせる街ができるように、そして、みんなが街を歩いて人と心地よい会話ができるように、楽しい会話ができるようにと願って地域の人とやっているんですけど、ぜひそういうものも、長期的にあの、名古屋市として、サポートするような、助成金を出すような、そういう制度を、検討していただきたいなというふうに思っています。

以上です。

司会

ありがとうございます。ただいまのご意見、ご提案を受けて、いかがでしょうか。

名古屋市

はい。企画課の渡辺です。ご意見ありがとうございます。2点、お伺いしたと思っております。1点目が、子育ての関係で、地域における居場所づくりというところと、それを支える、地域に根付いた社会福祉法人の、支援という関係と、市役所における体制の話と、もう1点が、ウォークアブルということを進める上での、地域の様々取り組んでおられる方の支援、助成の在り方ということでしたらと思っております。

まず1点目ですけれども、子育てされる方がですね、不安を感じられた時にですね、身近なところで相談できるような居場所づくり、大変重要な視点だと思っております。そうした中で、市役所だけでも、また公立だけでもできないと思っております。社会福祉法人、地域に根付いた社会福祉法人の皆様とも連携し

ながら、そういう場作りっていうことをやっていくっていうことが大事だと思っております。今回、そういう考え方につきましてはですね、中間の方でも議論しながらまとめているところでもございますし、最終案に向けて、そういう体制、支援のあり方ってというのは、ますます議論を深めてですね、最終案、まとめてまいりたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

また、市役所の中の体制でございます。この総合計画も、今回、総務局でご提案をさせていただいておりますけども、当然、作成過程におきましては、子ども青少年局で、子ども青少年局の中でも、それぞれの現場の皆様の意見も吸い上げた上でまとめているところではあります。ただ、そのあたりがなかなか十分な体制になっていないというご指摘かと思っておりますので、今 1 度掲げているような理念をしっかりと地域に根付いた皆様とやっていけるような体制でありましたり、市役所の体制につきましては、改めて最終案に向けて議論させていただきたいと思っております。また、もう 1 点、ウォークブルの観点で日頃から活動されている内容について、短期ではなく長期的に支える仕組み、あるいは金額というところでのご意見もいただきました。これにつきましても、ウォークブルという取り組みもすぐにできるものでもありませんし、一時だけやればいいという話では、ありませんので、長期的な取り組みが重要だと思っておりますので、どういう支援のあり方が必要なのかというところはですね、ご意見踏まえまして、また、中で議論をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

司会

それでは、次の方のご意見、ご提案に、移りたいと思います。それでは、先ほどのブルーの方、よろしくお願いいたします。

(2:07:01)

参加者②

〇〇と申します。私は、子どもを 2 人育てまして、コロナ禍、保育士の免許を取りまして保育所で従事しまして、今、発達支援の仕事をしております。色々子育てをする中で、私自身が、少子化になる原因の 1 つとしては、やっぱり教育に関するお金がかかるっていうことですね。エンジェル係数が高いという、そういうところがすごく大きいのではないかなと思ってまして、普通の義務教育で、偏差値で、そこで成績をもう決められてしまうと、その子その子の持っている才能というものを活かさないところもあるし、塾に行きたくても行けない。そういったところで、子どもを産むんだったら、その子に対して、できる限りのことをやってあげたいという母親、家族の思いっていうのがあると思うんで

すけれども、名古屋市として本当にやっていただけるのであれば、学校、教育の現場では、やっぱり人が足りないというところがありますけれども、1人1人の才能を伸ばしてあげられることと、そういう教育に関して、学校の中ではなくて、放課後、塾に行かなくても力を伸ばせるような教育の場を作っていたくこと。また、障害のある子どもたちが、小さい頃からその障害に対してグレーになってしまう、グレーゾーンのお子さんたちもいっぱいいるかと思うんですけれども、そういう子どもたちの才能を伸ばしてあげられるような、まちづくりをしていていただきたいなというところなんですけれども。ちょっと私もすごく色々と、資料を見てない部分がありますけれども、名古屋市としてはそのようなところはどのように進めていかれるのかっていうことを教えていただきたいと思います。

名古屋市

引き続き、お答えさせていただきます。ご意見、ありがとうございます。学校教育に関して、偏差値中心で、子どもの良いところ伸ばしていくというところ、欠けているのではないかとということと、障害をお持ちのお子さんについても、支援しつつ、その才能を伸ばしていくという視点ということで、ご意見をいただきました。

ご指摘の通りでございまして、学校教育におきましては、今、名古屋市もキャリア教育というところを、少し力を入れております。キャリア教育と言うと、少し難しい言葉に聞こえるんですけども、まず初めはですね、なにに興味を持って、関心を持ってっていうところ、自分の希望であったり、才能が開くのかっていうのは分からないということもありますので、多様な選択肢を示してですね、その中で、自分が合致するようなものも見つけていながら、また、見つかるようでしたら、そこの支援もしていくというのが、キャリア教育の1つの考え方かなと思っております。それが、学校の授業の中であったり、学校外ということで、いろんな場所ですね、支援ができるようなという取り組みを、今年度から本格的に始めているところでございます。また、放課後ということと言いますと、塾というのも1つの選択肢だと思いますけども、放課後の居場所づくりというのも大事な視点でありますし、その中で、何を体験し学ぶかということも大事だと思っておりますので、教育にかかわらず、そういう放課後の居場所づくりの充実っていうところも、取り組んでいく必要があるのかなと思っております。

また、障害に関しましても、まずは、身近なところできっちり障害のあるお子様を支援していくということが大事かなとも思っておりますけども、その中で、それぞれの方の能力、個性をしっかり支援だけではなく、引き出していけ

るようになっていうことは大事な視点だと思っておりますので、まだ、中間案ということで、具体策はまだまだこれからということではございますけども、いただいた意見も踏まえましてですね、いろんな部署にまたがる内容ではありますので、またそこはしっかり議論してまいりたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

司会

それでは、他にどなたかご意見、ご提案のある方は。それでは、あの、前方の方、お願いいたします。最前列の方でお願いいたします。

(2:12:01)

参加者③

私、20年前に伊藤忠商事を退職して、まあ、だいぶ古いんですけども、東京に本社がありましてね、女性の子育て支援を会社ぐるみで、すごく力入れてまして、例えば、出勤時間、4時で帰っていいとか、保育室の整備とか、色々やってみて、注目されて、厚労省の大臣が視察に来たらしいんですけど、やはり、今の結婚された女性の方、圧倒的にもうお勤めになってますんで、職場での企業の支援っていうのがね、役所がやってもね、知れてますんで、個々の職場で先進的なことをやられてる企業をピックアップして、その企業はこういう女性に対する子育て支援とかやっているとということをね、市から情報を集めて発信するとかね、やはりそういう職場で、やっぱりもうちょっと出生率が上がるような、やってほしい。伊藤忠の場合には、東京に圧倒的に、女子社員がいるんですけど、1.85ぐらいだそうです。出生が。だから、東京は、さっき、講師の先生が、1を割ってるって言いましたけど、1.85ぐらいの、今、率になってるそうで、私の勝手なご提案ですけど、ご参考にといいまして、発表させてもらいました。すいません。

名古屋市

はい、ご意見、どうもありがとうございます。ほんとに、少子化対策、また、子育て支援という観点で言うと、本当に社会全体で応援していく必要があると思っております。当然、役所もですね、率先してやる部分、あと旗を振っていく部分もありますけども、地域の皆様であったり、企業の皆様全体でやっていかないといけないと思っております。当然、役所もですね、率先してやる部分、あと旗を振っていく部分もありますけども、地域の皆様であったり、企業の皆様全体でやっていかないといけないと思っております。今、先進的な企業の取り組みをですね、しっかりこうPRして、それを波及させていくというよ

うな、ご提案をいただきました。もうまさにその通りだと思っております。我々もですね、そういう認定して発表するということやっておりますけども、まだまだ、ほんとに良い見本となるような企業の皆様いっぱいあると思いますし、そういったものを取り上げて、横に広げていくっていう取り組みは今後、ますます、大事になって来ると思っておりますので、ご意見踏まえまして、そのあたりは、引き続き、力を入れてまいりたいと思いますので、よろしくをお願いいたします。

司会

予定の時間を過ぎておりますが、時間を延長して、ご意見を頂戴したいと思います。ほかに、どなたかいらっしゃいますか。それでは、こちらの方、お願いいたします。

(2:15:04)

参加者④

私、〇〇という、保育園を設置経営しております福祉会の理事をしております、〇〇と申します。子育てのことに关しまして、講演の中でも触れられておりましたが、その4月1日現在の待機児童、これはまあ名古屋市の、かつては日本中のその群を抜いて多いというところでもあったんですが、少なくとも4月1日現在、かなり見かけ上の数字ではあるんですけども、0になってきていると。そこはいいんですけども、その過程でですね、どうしてもやはり数を重視した政策で、その質のところ、これが、私たち、現場で見えておりますと、かなり少し置き忘れられてきたというような点があろうかと思うんですね。そのこういう総合政策の中でですね、あの具体的政策であればできるんですけど、こういう総合政策の中でなかなか質を担保するようなことは難しいかなと。数的な、量的なことはまあ色々書けると思うんですけども、質をなんとかできること、これをですね、是非とも記述していただいて、そしてこれが、この総合政策を基にすれば、質の向上と言いますか、質の面を重視していかなければならない、そういうような計画でその仕上げていただければ非常に嬉しいなと思ってます。それからもう1点、これは簡単な方ですが、あの子育ての中でですね、学校教育のことが、私の不勉強かもしれませんが、あまり触れられていないような気がするんですね。同じ子ども、あの小学校時代の子どもでも、放課後のことについては、触れられているんですけども、学校教育そのものについて触れられていません。これは、教育委員会の仕事だと言われればそれまでなんですけれども、やはり、市の政策として、総合政策としてはですね、触れられてもいいのではないかなという気がしております。その時

に、ぜひともですね、これからの教育のあり方の中で、1つ、インクルーシブなその政策と教育というものを重点の1つに、それのみではないとは思いますが、けれども、重点の1つに、ぜひ、加えていただければという風に願っております。以上です。

名古屋市

はい、ありがとうございます。まず、1点目はですね、あの、保育のあり方ということでですね、数も重要だけでも、一方で、質も大事だということで、その視点が欠けているのではないかとこのところ、ご指摘をいただきました。ほんとに、ご指摘の通りでございます。当然、待機児童ということ、重要な課題ですね、受け入れ拡大してまいりましたし、当面そのところは力を入れていかないといけないとは思っておりますけれども、質の向上もですね、合わせて取り組んでいくべき内容だと思っております。少し保育ニーズ、保育需要ともですね、今後変わっていく中ではありますので、保育の在り方っていうのはですね、市全体の中でもしっかり検討して見直していく必要があると思っております。そうした中で質の向上、なかなか、今日、すいません、お配りしたあの概要版の中ではですね、現れてきてなくて大変申し訳ありません。あの中間案の中に、本体の方には、質の向上という、言葉自体は、載せております。ただ、載せればいいということでもありませんので、中身が伴うような、政策を、しっかり計画案に、位置づけていけるようにですね、子ども青少年局とも、相談しながら、計画案、まとめてまいりたいと思っております。

もう1つが学校教育ということで、本当に、ご指摘の通りだと思っております。お子さんからすれば役所は、こう、縦で分かれておりますけれども、毎日の、日々の生活ということで言うと、学校がそれ以外でも、放課後でもですね、全て繋がっているということがございますので、子育て支援っていった中にはですね、当然、あの学校教育とかですね、放課後も含めて全体が一体ということになると思っておりますので、すいません、今日お示しする中でちょっとわかりにくい部分がありますけれども、お手元の資料の例えば戦略1、重点戦略というのが、概要版で6ページにございます。

めくっていただいて7ページに子ども、若者の希望や夢を社会全体で応援します。

項目として戦略分かれてしまっているので、別々という風に、見えてしまうかもしれないんですけど、やはり子どもの視点ということで、戦略1に、というのは一体だと思っておりますので、戦略2につきましては、学校教育にかかるところ、また、この戦略2の2つ目のところに関しては、支援を必要とする子ども、若者の支援、家庭への支援ということでですね、全体としてはやっぱ

り一体で市としては考えていく必要があると思っておりますので、もう少し、分かりやすくということとですね、計画の見た目だけではなくて、取り組み自体も連動した取り組みとしてしっかりご説明できるようにはしてまいりたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。あと、インクルーシブ教育という視点も、基本方針の中で、多様性と包摂性、インクルーシブということは少しキーワードとして入れさせておりますので、教育の現場ももちろんそうですけども、全ての局面で、そういう言葉、大事にしながら、市政運営を行ってまいりたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

司会

まだまだ、ご意見、ご提案もあろうかと思いますが、予定時刻を大幅に超過しておりますので、申し訳ありませんが、あとお一人とさせていただきます。ご協力お願いいたします。それでは、どなたかいらっしゃいますでしょうか。

(2:22:05)

参加者⑤

〇〇と申します。自分の住む行政がどういう風に考えて、どういう風に実行してるかっていうことが、今日はすごくいろんな形でわかったので、本当参加できてよかったなと思っています。実際にこれを実行していくためにどうしていくかがすごくポイントになってくるかなと思うんですけど、2つポイントを教えていただきたい部分があって、1つは例えば、子どもを教育する、本当に辛い現実じゃなく、明るい未来を語ってくれる、そういう方たちが増えていくと明るくなるんだろうなと思うんですけど、そういう方たちをどういうふうに、しっかりと、さっきお話が出たみたいな、質を確保しつつ、準備できるか、用意できるか、確保できるかということ。それと、実際今まで、今回講演があったみたいに、やればやるほど数字はやっぱり上がってく、ただ、それができてないのが現状だと思うので、どういう形でそれを実行していくのか、求心力ある人を、取り込んでいくのか、そのあたりにお伺いできればなと思います。よろしくお願いします。

名古屋市

今後実行していくためのポイントということで、本日のテーマが、子育てや少子化のことでしたので、その点について少しお答えをさせていただきますと、明るい未来を語る人を、そういう質を確保ということでございます。特定の方というよりは、そういう社会の空気を作っていくということが大事なんだと思っております。人が語ることも大事なんですけども、日々暮らす中で、普通に

バスに乗ったり地下鉄に乗ったりとかっていう中で、障害が少ない、段差が少ないとか、周りの方が声をかけるとかっていうようなこと、生活する中で、明るさを感じたり希望を持ったりっていうことが、重要な視点だと思っておりま
すので、それをハードの面で作り上げていくことも大事ですし、ソフトの面でも
気持ちの部分で持っておくということが大事なかなと思っております。2 点目
に関しましては、人材を育てるにあたっては教育する側、支援する側も、しっ
かりした体制で環境が整っていないと十分なことはできないかなとも思ってお
りますので、子どもの目線で、子どもどまんなか考えるっていう中にはです
ね、子ども本人のことも当然あると思いますけども、周囲で守る、支援する側
の人たちも支える対象であり強化をしていく分野なんだと思っておりま
すので、そこは幅広に考えて強化をしていく必要があるかなと思っております。

名古屋市

少し補足させていただきます。人材のことでございますので、まず一義的には
市の職員、我々がしっかりとこういった意識を持って、しっかり研修等して、
子どもに対して真摯に取り組むということ、計画を作り上げていく過程の中で
しっかり掲げて、我々として心に刻んでしっかりやっていくということはもち
ろんです。ですが、それ以外にも、先ほど社会福祉法人の方もお見えになられ
ましたが、役所だけでは、不可能だと思っております。公民連携と言いま
すか、役所だけではなくて、それ以外の方々にも、しっかりと我々の方から願
いをする、あるいは必要な予算措置をする、支援をするというような形の中
で、市全体を挙げて、子育てに対する意識を上げていくことが人材確保につな
がっていくのかなという風に思っておるところでございます。直接的な答えじゃ
ないかもしれませんが、市全体で、オール名古屋で取り組んでいきたい
なという風に思っているところでございます。

司会

会場の皆様、配信をご覧の皆様、長時間にわたりありがとうございました。
本日ご発言いただけなかったご意見、ご提案は、お配りしている意見用紙にご
記入の上、受付付近の回収箱に入れていただきますようお願いいたします。ま
た、アンケート用紙につきましても、お手数ですが、ご記入の上、受付付近の
回収箱に入れていただきますようお願いいたします。なお、中間案に対するご
意見、ご提案は後日お寄せいただくことも可能です。12 月 25 日まで、郵
送、メール、fax、web にて募集しております。詳しくは、本日お配りした中
間案概要版の裏面をご覧ください。

配信をご覧の皆様も、概要欄にアンケート回答フォーム、ご意見募集フォーム

へのリンクをご用意しておりますので、ぜひご回答よろしくお願いいたします。
最後に、次回シンポジウムのご案内をさせていただきます。

次回シンポジウムは、10月14日土曜日14時から伏見ライフプラザ5階鯉城ホールにて開催いたします。今回同様、会場での開催に加え、同時生配信と後日録画配信を行います。

会場参加をご希望の方は、現在先着順でお申し込みを受け付けております。お申し込み期限は9月27日水曜日までです。詳しくは、区役所・支所等で配布しているチラシや名古屋市公式ウェブサイトをご覧ください。

それでは、以上を持ちまして名古屋市次期総合計画シンポジウムを終了いたします。本日は誠にありがとうございました。

皆様お気をつけてお帰りくださいますようお願いいたします。

なお、会場の利用時間がございますので、10分後をめぐりご退場を完了できるようご協力をお願いいたします。